後援会だより

第 33 号 2022年3月10日発行

編集発行/鹿児島大学法文学部後援会

■本誌の案内■

T. HO. C. N. L.	
○あいさつ	○就職支援事業
後援会会長・・・・・・・・・・・・・・・1	令和3年度就職支援室報告・・・・・・・・3
法文学部長(後援会顧問)・・・・・・・2	就職活動にかかる交通費の一部支援事業・・・・・・・4
○専門職大学院報告	○主な支援事業の成果報告
臨床心理学研究科長・・・・・・・・・2	各種実習への支援(国内)・・・・・・・・・・6
	○令和3年度後援会役員一覧・・・・・・・・・8

後援会会長あいさつ

法文学部後援会会長 松川 嘉孝



長引く新たな感染症により、人々の生活環境を大きく変えた令和3年度も終わりを迎えようとしています

このたび、鹿児島大学・ 大学院をご卒業・修了され ます学生および保護者の皆

様に心からお祝い申し上げますとともに、これま での本会の運営に対するご理解とご協力に感謝申 し上げます。

さて、ご卒業される学生の皆様には、鹿児島大学・大学院での学校生活はいかがだったでしょうか。かく言う私も、18歳で親元を離れ鹿児島大学で学んだ一人です。入学当初は、鹿児島に縁もゆかりもなく、もちろん知人、友人もおらず、不安な大学生活の始まりでした。しかしながら、大学に通い続けているうちに、自然と大学の友人ができ一緒に学び、遊び、この卒業時期になると、学友たちと過ごした頃の記憶が思い出されます。

新たな感染症により、以前のような大学の教育活動ではなくなり、活動制限下の中での生活で自分が考えていること、チャレンジしたいことが出来ない事もあったかとは思いますが、このような学校生活での経験も良き糧として捉え、今後の社

会生活の中で壁や困難に直面した時に、この糧が 皆様の支えになってくれることを願っています。

最後に、会長として1年、本会の運営に関わらせていただきました。この1年間、皆様には様々な形でご支援を賜り、この場をおかりし厚く感謝申し上げます。また、教職員の皆様方におかれましても、以前と変わらぬ教育活動にすべく、日頃よりご尽力いただき誠にありがとうございました。本年度も総会は書面での開催となるなど、皆様と意見交換や会員相互の交流もかないませんでしたが、会員の皆様には、大学の教育効果が発揮できますよう、今後とも本会の趣旨をご理解の上、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



法文学部長あいさつ

法文学部長(後援会顧問) 松田 忠大

後援会会員の皆様におかれましては、法文学部・人文社会科学研究科の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。令和4年の幕開けとともに、オミクロン株を主流とする新型コロナウ



イルス感染症が、全国的な規模で爆発的に拡大し、この原稿を執筆している今もその勢いが衰える気配がありません。学内における学生の感染が確認され始めると同時に、法文学部では、原則として遠隔方式の授業に切り替え、学生および教職員の健康の確保に努めることにしました。以前は、遠隔授業の授業についての教育効果については様々な意見がありましたが、最近では、教員の遠隔授業のスキルも向上し、対面授業と同等またはそれ以上の教育効果が得られています。法文学部では、どのような状況の下でも、学生・教職員の健康と教育・研究活動の両立を目指してまいります。

昨年度以来、この「後援会だより」では、主に、 法文学部における新型コロナウイルス感染症への 対応を紹介してきましたが、今回は、法文学部に おける新しい事業の計画を紹介したいと思います。 ご存じのように、鹿児島県は、明治維新そしてわが 国の近代化を先導し、牽引した多くの偉人を輩出し ており、これらの偉人や近代化に関連する多くの歴 史的貴重遺産を有しています。個々の研究者がこれ に関する研究活動を行い優れた成果をあげている ものの、残念なことに、研究活動を支え、効果的に、 その優れた成果を地域の課題解決に応用できるよ うにするための組織や仕組みが、鹿児島県内には存 在しません。

こうした現状を踏まえ、法文学部では、来年度以降、鹿児島大学に「『鹿児島の近現代』教育研究拠点」を整備する事業を計画しています。鹿児島の近世・近代を起点に現代社会を見つめ直し、鹿児島の地域社会やわが国の未来を切り拓くための研究の推進と、その成果を地域の発展に結びつけることがこの事業の目的です。研究者などの専門家だけではなく、地域で学ぶ子供たちや若者を含む一般市民の皆様からも意見をいただきながら、順次、この事業

目的に沿った具体的な取組みを策定していきたい と考えています。

また、この事業では、近現代に関する研究成果を、地域の文化や産業の発展だけでなく、教育にも活用する仕組みづくりも計画しています。新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界的に不安定な政治、経済活動が行われています。こうした時代だからこそ、幕末・明治維新期の偉人や歴史的貴重遺産に関する研究の成果などを教育内容にも取り入れ、法文学部が拠点となって、先行き不透明な未来を切り拓くことのできる人材を育成したいと考えています。

後援会会員の皆様には、引き続き、法文学部・人 文社会科学研究科における教育・研究活動活動にご 支援をいただければありがたく存じます。

専門職大学院報告

◎臨床心理学研究科

鹿児島大学大学院

臨床心理学研究科 研究科長 中原 睦美

新型コロナウイルス (COVID-19) 感染は、変異 を繰り返し、予断を許さな い状況が続きます。感染を 正しく怖がりながら「でき る日常」を積み重ねていき たい毎日です。本研究科は、 法文学部からのご理解とご



協力のもと、可能な限り対面授業と学内・学外実習を提供すべく、工夫を凝らして参りました。後援会の皆様には、平成19年度の臨床心理学研究科設置以来、令和3年度も、「各種検定料金の一部補助」「臨床心理士養成に向けた学外施設実習に係る交通費補助」のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。以下に、令和3年度の主な活動を報告いたします。

1. 教育体制の工夫による手厚い教育の維持

一昨年から教員の退職が続きました。新規採用凍結という本学の方針のなか、佐野学長のご厚誼により教育研究教員の教授1名、本研究科では初となる助教1名が専任教員として4月1日付けで着任し、8名体制となりました。さらに、マンパワーを補う目的で、心理臨床相談室に非常勤カウンセラーを2

名雇用し、学生への心理臨床指導の手厚さを維持す る工夫を行いました。この2名は、専任教員同様に 臨床心理士及び公認心理師の2資格を有し、法文学 部及び本研究科出身者であり、法文学部生の一つの モデルになると期待されます。「人が入れ替わって も教育の質を担保する」研究科の理念を維持してい く所存です。

2. 臨床心理分野専門職大学院認証評価受審

令和3年度は、国立大学法人評価の事後対応、大 学機関別認証評価、臨床心理分野専門職大学院認証 評価の受審が重なりました。なかでも、臨床心理分 野専門職大学院認証評価は、文部科学大臣により付 託された認証評価機関「公益財団法人日本臨床心理 士資格認定協会」による5年ごと以内に受審する、 専門職大学院には必須のもので、設置15年目の今 回は3回目の受審となりました。法文学部長等にご 支援いただき、10月21日の実地視察では8名の評 価委員と事務方がご来校され、終日かけて、授業参 観、心理臨床相談室を中心とした施設見学、学生面 談、教員面談が実施されました。本研究科は入学 定員を満たし、就職率もほぼ100%を維持し、臨床 心理士資格も全修了生194名中98.4%が取得してお り、当日は手厚い教育体制と学生の学びの姿勢につ いてお褒めの言葉をいただきました。直近4年間の 公認心理師も93.2%が取得しています。令和4年 3月31日に「適合」がいただけることが期待され ます。上記の詳細は、臨床心理学研究科ホームペー ジに掲載してございます。是非ご覧ください。

http://www.cp.leh.kagoshima-u.ac.jp/

就職支援室報告

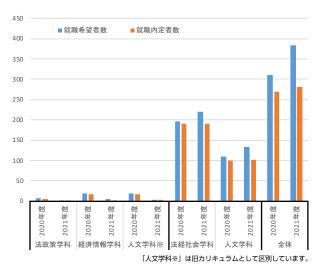
就職支援室長 藤田 紘一

2022年卒の就職関係は、新型コロナの感染拡大の 影響を受けて、選考スケジュールの遅れや、採用を 中止した業界・企業が多数見られ、昨年同様大変厳 しい状況が続きました。法文学部4年生の就職内定率 については、右記グラフを参照してください。

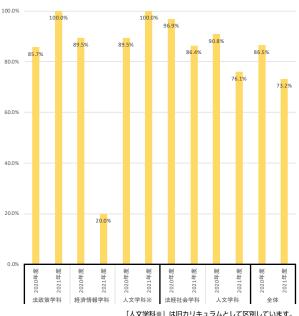
現在大学生活を送っている学生の中には、未だコ ロナの収束する見通しが立たない現状を見据え、今 後の就活スケジュールや採用動向がどうなるのか気 になっている人も多いと思います。そこで今回は、 2023年卒の学生を対象に「基本的な就活スケジュー

ル」「インターンシップ情報」「コロナ禍の採用動向」 といった「就活の大まかな流れ」や「コロナ禍にお ける新卒採用の状況・ポイント」について述べてみ たいと思います。就活にあたって2023年卒の学生が 最も気になることの一つが、「自分たちの就活スケ ジュールがどうなるのか」という点ではないでしょ うか。2023年卒の就活は、コロナ禍において就活 生の混乱をなるべく避けるために現状維持でのスケ ジュール調整が好ましいという理由から、2022年卒 と同様のスケジュールとなりました。インターンシッ プに関しては2021年夏から翌年の3月頃にかけて行 われることがほとんどです。インターンシップのメ リットとしては、①夏休みに開催されるため学生側 も参加しやすい②2週間以上、1ヶ月以上といった長 期インターンシップが行われる場合も多く、企業の

卒業生の就職内定者数の比較(R4.2.1 現在)



就職内定率の比較(R4.2.1 現在)



「人文学科※」は旧カリキュラムとして区別しています

特性や業界への理解が深まりやすい③書類や面接の 際に語れるエピソードが増える④自らの適性や企業 との相性を知るきっかけとなる⑤働くイメージや社 会の雰囲気を肌で感じられるといった点が挙げられ ます。なかなか学生のうちは「企業で働く自分の姿」 がイメージしにくいものですが、インターンシップを 経験することで、自分自身を見つめ直したり、将来 の自分を考えたりする良い機会となります。そのた め積極的に参加すると良いでしょう。2020年~21年 にかけて続くコロナ禍では、企業の経験活動にも大 きな影響がありました。東証1部上場企業においても 減収や赤字になるなど、業績悪化に転じた企業が多 数発生しました。中でも、鉄道会社をはじめとする 運送関係や自動車輸出業、アパレルメーカーなどは 大幅な減収となっており、厳しい状況が続いている ようです。一方で、「ゲーム関係や情報通信分野」な ど増収増益となっている業界や「電気・ガス」など 増益が横ばいとなる企業もあり、「コロナ禍において 巣ごもり需要の獲得ができる業種かどうか」、「外的 要因に左右されにくい業種かどうか」といった点が 明暗を分けた形となっています。こうした企業の業 績は、採用活動にも直結することが多く、今後の就 活における企業選定にも気を付けていただきたいと 思います。コロナショックによる経済悪化がどこま で続くかは未知数ですが、コロナ前の状況まで即座 に回復するとは言い難く、2023年卒の採用活動にま で影響を与える可能性も少なくありません。希望業 界や企業での採用活動が突然取りやめとなってしま うケースもあるため、そうなった場合のリスクヘッジ として「特定の業界だけではなく様々業界の研究を する」、「幅広い業種にエントリーする」といったこと も考えておきたいものです。コロナ禍で「企業の採 用活動がどうなるのか心配だ」と思う人もいるかも しれませんが、スケジュール管理能力と適切な対策 があれば必要以上に不安に感じることはありません。 来るべき就活に向けて、できるところから着実に始 めていきましょう。

○就職活動に係る交通費の一部支援事業

法文学部後援会では、学生の就職活動を支援し、 経済的な負担を軽減するため、交通費の一部を補助 する事業を行っています。ここでは、この支援事業 を利用して就職活動を行った学生からの報告を掲載 しました。学生たちの就職活動の現状を知る参考に していただければ幸いです。

◆就職活動支援を受けて

法経社会学科4年 上野 紗愛

私は、公務員試験合格に向け大学2年の秋に予備校に入校しました。大学3年の2月からはアルバイトを休職し、勉強に専念するようになりました。当初は地方公務員を志望していたのですが、多くの説明会に参加するうちに国家公務員にも魅力を感じるようになり、国家公務員になることを第一志望として就職活動を行いました。

就職活動が始まると、自分が想像していた以上に 県外に行く機会も多かったため、金銭的な負担が大 きくなりましたが、自分の人生の選択肢の幅を広げ るためにも積極的に説明会や面接を受けるようにしま した。国家公務員は、県内のみならず、県外で説明 会や面接が行われることが多く、私は就職活動中に 鹿児島から熊本に5回、福岡に2回行きました。時に は急に電話で採用面接に呼ばれることもあったため、 移動手段としては新幹線をよく使いました。アルバイ トを長い間休職していたこともあり金銭的な負担が大 きかったのですが、その際、私の就職活動を後押し してくださったのが後援会による交通費補助でした。

私は、法文学部後援会が就職活動に係る交通費補助を行っていることを、大学4年の春に「後援会だより」で知りました。今後、就職活動を控える皆さんへお伝えしたいことは、ぜひ後援会の交通費補助制度を利用して自分の将来の選択肢の幅を広げてほしいということです。私自身、就職活動においてこのような温かい支援を受けることができ、金銭面での心配が軽減されたため、非常にありがたかったです。ご支援してくださった皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

◆就職活動支援を受けて

法経社会学科4年 杉木 葵

私は、大学で学んだ法律の知識を活かしながら、 人々の生活を支えることのできる公務員を目指し、 大学3年になった頃から公務員試験勉強を始めま した。公務員試験は科目数が多く、自力で学ぶには 難しいと考えた為、公務員の専門学校に通うことに しましたが、大学の授業と公務員試験の対策を同時 並行しながらアルバイトを行うことが難しく、ま た、コロナの影響もあり、アルバイト収入が減少し ていきました。同時に、公務員を目指すにあたり、 様々な説明会や官庁への訪問が必須であり、面接 試験等も熊本や福岡で行われることから、交通費、 宿泊費への出費がかさんでいきました。移動手段や 食費などを日々節約しながら生活している中、公務 員試験を受けた先輩にお話を伺う中で、鹿児島大学 の後援会が交通費の一部を負担してくれる支援が あるということを聞き、是非この支援を利用させて いただき、一つでも多くの合格を勝ち取りたいと強 く思いました。

実際に就職活動支援を活用させて頂き、交通費を 理由に受けるかどうか迷っていた説明会や受験先 を増やすことができ、最終的には、自分の予想して いたより多くの公務員試験を受験し、合格すること ができました。また、説明会に行く機会を増やすこ とができたおかげで自分が行いたい業務や働く上 で大事にしたいポイントなどを明確にすることが できたのも、支援があったからこそだと感じ、就職 活動支援を受けてとても良かったと思いました。

私の就職活動は、先生や友人そして、後援会からの支援がなければ、最後まで粘り強く取り組むことはできなかったと思います。ご支援してくださった皆様に感謝申し上げますとともに今後、鹿児島大学の学生の方々の就職活動が充実したものになるようお祈り申し上げます。

◆就職活動支援を受けて

法経社会学科 4年 山村 朋子

私は、大学入学時から、地元の愛知で企業に就職 すると決めていました。新型コロナウイルスの影 響で、企業説明会や一次面接のほとんどはオンラ インで行われました。一方で、選考が進むと、対面 での面接が実施されるようになりました。そこで、 やはり愛知に行く必要がありました。移動時間と交 通費の関係から、新幹線ではなく飛行機が良いと思 われました。それでも、就職活動のスケジュールの ために、航空券の値段が高い日を選ばなくてはいけ ないという事態になりました。大きな出費が気がか りだったところで、後援会が実施する交通費の一部 支援事業について知りました。これを知って、選考 スケジュールだけを考えて、移動する日を決めよう と思いました。後援会からの支援があったことで、 万全な状態で選考に臨むことができました。地元が 離れている私にとって、この支援はとても有難かっ たです。

就職活動を通して、多くの方々に支えられている と感じました。自分一人だけでは、無事に就職活動 を終わることは難しかったです。後援会からの支援 もあったことで、入学当初の思いを実現させること ができました。また、大学で鹿児島に行ったからこ そ、地元のことを客観的に見るようになり、愛知に ある様々な企業の魅力を知りました。そして、鹿児 島で出会った人たちや見たもの、経験したことは自 分の一生の財産となりました。ご支援してくださっ た皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。本当に ありがとうございました。

◆就職活動支援を受けて

人文学科4年 徳永 大輔

私は、公務員試験を中心に民間も併願しながら 就職活動を行いました。民間企業では、1次面接や 2次面接でオンライン面接を取り入れ、最終面接で は交通費を全額支給する企業が多く、費用は宿泊費 程度しかかかりませんでした。一方、公務員試験で は一般的に、1次試験から最終面接、採用後の面談 まで全ての就職活動において一切の費用が支給さ れません。鹿児島県内であれば、移動距離が短いた め大した費用になりませんが、私は県外の自治体や 国家公務員の試験を受験したため、交通費と宿泊費 がかかり、金銭的な負担が大きくなりました。面接 を受けに行くたびに、私の貯金残高は減少するば かりでありました。計8回の移動で、交通費9万円、 宿泊費2万円の合計11万円かかりました。私は公務 員試験を2つしか受けませんでしたが、県外での面 接を何回も受ける場合や東京など遠方の面接に行 く場合はこれよりも費用がかかっていると思いま す。地方の大学生で遠方への就職を考えている場 合、就職活動における費用が学生の負担範囲を超え ていることは想像に難くありません。私の他にも交 通費や宿泊費で頭を悩ませていた就活生が多くい たことでしょう。

貯金残高が減っていく中で、学校からメールで 就職活動における経費補助の連絡をもらいました。 1人上限1万円、この金額は新幹線片道分やホテル3 泊分に相当します。金銭的余裕のない大学生にとっ て、1万円の支援は大変助かります。私はこの支援 によって、就職活動における経費のうち1割に相当 する額の補助を受けることができ、大変有難く感じ ました。ご支援してくださった学部後援会の皆様に はこの場を借りて御礼申し上げます。また、今後、 経費補助要件の拡充等、鹿児島大学生の就職活動の 支援が広がっていくことを願います。

主な支援事業の成果報告

法文学部後援会では、会員の皆さまからお預かりした会費を、学生が国内外で行う調査実習の旅費や、教育・研究活動の経費の補助に活用しています。ここでは、その一部を成果報告としてご紹介します。また、新型コロナウイルス感染防止対策などで予定をしていた国内外での実習や教育・研究活動を延期または中止せざるを得ない状況となりました。一日も早くこの事態が収束に向かいますことを心から願っております

○各種実習への支援(国内)

◆地域人材育成プラットフォーム・リサーチプログラムでの「奄美大島実習」

目的・概要・スケジュール

地域人材育成プラットフォーム・リサーチプログラムでは、地域での問題発見・解決を行うプログラムである。今回の実習は、奄美大島で大島紬に関連する課題について調査したり、製造過程を体験したりすることを目的に実施された。

◎10月23日13:00~17:30 · 奄美市名瀬

奄美市・名瀬において、フィールドワークを実施した。2,3名のグループに分かれ大島紬の販売店や名瀬地区の商店、おがみ山地区を中心に訪問した。特に、大島紬の販売店では、「どのような人」が、「どのような商品」を購入するのかといった大島紬の販売の実状や、販売店としての大島紬に対する思い、今後の展望などを伺った。

◎10月24日9:30~15:00・原絹織物

原絹織物において、(1) 伝統工芸士・原仁左工門 さんの講演・質疑応答と(2) 草木染・泥染体験に 参加した。草木染・泥染体験では、実際にストールを染める活動を行った。草木染は工房内で実施し1時間程度の作業を体験した。その後の泥染め体験では、泥田からストールを出し空気に触れた瞬間に色が変わっていく様子を体験・観察した。

実習に参加して

法経社会学科3年 武田 夏実

奄美市にて実際にフィールドワークをしたことにより、名瀬に住んでいる方々の様子や奄美大島内での文化と文化の交流などを知ることができた。また、原絹織物の原仁左エ門さんのお話を聞き、大島紬への考え方の斬新さを感じ、大島紬が今後どう受け継がれるべきかという点で新たな視点を持つことができた。泥染め体験では、精巧な大島紬ができる過程をより鮮明に想像し、改めてその大変さを感じることができた。

今後の学習では体験を活かし、大島紬の魅力を伝え、かつ新しい考え方や物を取り入れながらの大島紬の紹介方法や継承などについて考えていきたい。特に、新しい、『大島紬らしくない』大島紬を入り口として、本物の大島紬の魅力に気づいてもらうという視点は大切にしたいと考える。

実習に参加して

法経社会学科2年 大杉 直生

何を学んだか?

24日の午前中に行われた原さんの講演の中で、大島紬を含む伝統産業の衰退の要因は二つあり、生活様式が変化したことと他分野との交流をしていないことだというお話がとても印象に残っている。一つ目の生活様式の変化は、衣服でいうと着物から洋服へと消費者の志向が変化したことであった。二つ目の他分野との交流をしていないことは、大島紬は分業で成り立っているため、他業種や他地域との交流が少なく、なかなか新しい情報が入ってこないということであった。他の業種や他地域に積極的に働きかけていき、職人自身も情報発信していきながら、新たな大島紬の形を作りあげていくことが必要だと分かった。

草木染・泥染体験では、草木染のにおいや、手についた色、泥に足を踏み入れたときの感触など、 実際に体験してみないと分からない貴重な経験を することができた。少しの時間ではあったが草木染 や泥染を体験したことで、このような製造工程が引 き継がれていることのすごさを感じたし、大島紬を より身近に感じることができたように思う。

・今後どのように活かしていくか?

主に二つある。一つ目は、様々な視点から大島紬 を見てみるということだ。今回の実習を通して私 は、大島紬が奄美の人々の生活にどのように関わってきたかや、どのように大島紬の製造工程が継承されてきたのかなどに疑問を持った。これを明らかにするためには、大島紬の歴史はもちろん奄美という地域の歴史も知っておく必要があると思った。このように今回の実習で生まれた疑問や興味・関心を深堀りして様々な視点から大島紬にアプローチしていこうと思う。

二つ目は、大島紬から視点を広げて考えてみるということだ。大島紬が今抱えている後継者不足などどいった問題が、他の織物や伝統工芸品にも同じことが言えるのか、どのようにしてその課題に取り組んでいるのかなどを調べてみたいと思った。

今回の実習にあたり、法文学部後援会から、費用 の一部の補助を頂きました。誠にありがとうござい ました。この場を借りて深く感謝いたします。

◆臨床心理士養成に向けた 学外施設実習を通じて学んだこと

鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科1年 杉中 星河

私は今回、医療法人慈和会大口病院にて学外実習 をさせていただきました。医療法人慈和会大口病院 は昭和29年に開設された、鹿児島県伊佐地区唯一 の精神科医療機関です。精神科病棟はもちろんのこ と、地域移行機能強化病棟と呼ばれる、患者さんの 地域での生活復帰をしていく支援としての機能を 果たす病棟を有するなど、それぞれの患者さんの状 態やニーズに応じた対応がなされています。また、 精神科デイケアや重度認知症患者デイケアをはじ め、グループホームや自立訓練施設、さらには就労 継続支援B型事業所といった、さまざまな関連施設 が整備されており、地域の精神保健福祉を包括的に 担われています。このように、多様化した心の不調 について関係機関、行政などと協力して地域密着型 医療、支援にあたることを目指されており、今回の 実習ではその現場で働く心理士の方々の活動を見 学し、お話を伺う中で、さまざまな学びを得ること ができました。

まず、病棟見学や各種デイケア活動を通して、患者さんや利用者の方々と直接交流できたのは、なによりも一番の体験となりました。普段の学校生活においては、机の上で文献等を通して学んでいくことが主となるため、やはり現場の実践レベルで関わることにより、今まで得ていた自身の中での理解がよ

り経験知として深めることができました。また、そ の中で働いておられる心理士の方々が、スピード感 をもって活動されている様子が印象的でした。それ ぞれの現場、それぞれの場面において、瞬時に個々 のニーズに応えていくために、専門的知識・理解が 各々に基礎として根ざしており、それを踏まえて 日々試行錯誤されていました。大学院で学んでいる 基礎的な理論の大切さを今一度再確認することが できました。このような、理論と実践のバランスは 専門家として必須のことであると痛感し、今後の自 身の活動において意識して取り組んでいきたいで す。さらに、バランスという意味では、医師や看護 師はもちろん、作業療法士の方や精神保健福祉士の 方など、他の専門家との連携協働が求められる現場 では、臨床心理士としての専門的な知識はもちろん のこと、いわゆる社会人としての振る舞い方といっ た一般的な知識も大切だと思いました。そうした、 専門家同士の良好な関係性が、ひいては患者さんの こころの健康にもつながるため、私も自身の個性を 再確認し、自分の専門のみならず、さまざまな領域 分野において開かれた存在であろうと強く感じま

今回の実習に際しては、後援会の皆様方から補助をいただきました。こうした温かいご支援のおかげで、上述のように大変充実した学びの機会を得ることができました。本実習で培った貴重な学び・体験をもとに、今後も臨床心理士のたまごとして、より一層精進して参りたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

■ 令和3年度後援会役員一覧 ■

 会 長:松川 嘉孝
 副 会 長:前田 香

 顧 問:松田 忠大
 常任理事:藤内 哲也

理 事〔保護者・社会人学生(本人)〕:

(法経社会学科) 松川 嘉孝、木村 恵美 (人文学科) 早川 由香里、寺田 緑 (人文社会科学研究科) 浦元 駿 (臨床心理学研究科) 前田 香 理 事〔教 員〕:

(法経社会学科) 平井 一臣、農中 至 (人文学科) 内山 弘、大薗 博記 (臨床心理学研究科) 廣瀬 幸市

監 查:坂之上 千津子、澤田 成章

監事:村山敬三

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 電話099-285-7510 (7602) FAX 099-285-7609 E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp 後援会ホームページ http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/